

デジタル技術の活用及びDX推進の取組状況について

株式会社 CORDER

【デジタル技術が社会や当社の競争環境に及ぼす影響】

デジタル技術の活用は、顧客満足度を向上させ、当社の競争力に対し好影響を及ぼす非常に重要な要素だと考えています。

具体的には以下の3点より、競合優位性が高まります。

1. 労働生産性の向上

現在の弊社主力事業「積算代行サービス」は建築における見積を代行して行うサービスですが、デジタル技術を活用することにより、これまで手作業で行っていた情報の登録作業や確認作業の手間が省かれます。このことにより、1件当たりの処理時間が大幅に短縮され、弊社の労働生産性を向上させます。

2. 顧客満足度の向上

デジタル技術を活用したシステムにより、これまで横断的な分析が難しかった顧客満足の要因分析が可能となり、顧客との長期的な関係構築に向けた有効な施策が実施できます。このことにより、顧客満足度を向上させます。

3. 業務品質の向上

建築の積算業務においては数量計算の正確性が求められます。数量計算のミスが、その後の建築の安全性に大きく影響を及ぼすことから、ミスの可能性を極限まで低くすることはレピュテーションリスクを低減するためにも非常に重要です。デジタル技術の活用により計算の自動化、およびエラー検知をすることで、人為ミスがなくなり、業務品質が向上します。

【デジタル技術の影響を踏まえた当社の経営ビジョン】

「デジタル技術を十分に活用して、
顧客・従業員双方に付加価値を与えるサービスを産み出す」

急速に変化するデジタル技術は社会に大きな影響を与えるものであり、デジタル技術の有効活用の有無により企業の競争力にも大きな差が出ると考えています。

このような現状を踏まえ、当社ではAI等の先端デジタル技術を積極的に活用することで、当社サービスの提供価値の向上及びオペレーションの再設計・効率化を図ります。その結果、顧客満足度の向上、生産性向上分の従業員への還元、建築業界の生産性向上等を推進致します。

【経営ビジョンを実現するためのビジネスモデルの方向性】

当社は建設業で働く人々を不合理から解放することを目指してビジネスを推進していきます。

建設業界は「高齢化」「3Kのイメージによる労働者離れ」「劣悪な労働環境」等の深刻な課題が山積み、現場では、業務・責任の押し付け合いや理不尽な要求に対する対応など不合理な仕組み、業務が残ります。

業界らしい文化を破壊することなく、無駄な作業を削減すること、効率化することが急務です。

IT 技術を活用したサービスの提供を通して、建設業に関わる全てのプレイヤーが自分の力を最大限発揮できる世界を創ります。

【経営ビジョンやビジネスモデル実現のための戦略】

・顧客業務プロセスのデジタル化による業務効率化

個別のやり取りが多数発生している見積業務プロセスのデジタル化とこれまで紙で個別管理されてきた見積もりデータの統合を実現します。

統合された見積もりデータに対して AI-OCR 技術を活用することで、比較・分析を容易にし、顧客体験の向上及びサービスの高付加価値化を実現します。

・自社業務の効率化による生産性向上

顧客データや業務データなどを統合しデータ分析が容易な環境を構築することで、経営・営業・マーケティング・オペレーションなど各種プロセスにおける自社の業務を効率化します。

・DX 人材の育成強化

DX を推進するために必要な人材の育成に継続的に取り組んでいきます。

日々進化するデジタル技術の知識の習得、技術を有効に活用するための戦略立案や実行に必要なビジネススキルの習得などが出来るように環境を整備し、体制を整えます。

【DX 推進のための組織体制】

当社では、代表取締役の田邊健斗が CIO（最高責任者）を務め、DX を推進して参ります。また、DX 推進室も設置し、従業員をその傘下に加え、DX を強力に推進致します。

【DX 戦略実現のための環境整備への取り組み】

- ・顧客業務プロセスのデジタル化による業務効率化

先端デジタル技術を積極的にシステム構築に取り入れ顧客業務全体の生産性向上を目的としたシステム構築と提供を行う

- ・自社業務の効率化による生産性向上

コミュニケーションツールや電子決裁システムなど、デジタル技術の活用により、どこにいても働くことができる環境を構築します。また顧客情報や接触履歴、対応内容をデータベース化して蓄積し、一定品質以上のサービスを提供できる環境を整備します。

- ・DX 人材の育成強化

オンラインセミナー、eラーニング等を活用し、社員がいつでもどこでも教育を受けられる環境を構築する

【DX 戦略達成状況指標】

当社では DX 戦略の達成指標として下記の指標をモニタリングしながら、必要に応じて見直しをしながら戦略達成に向けて取り組んでまいります。

- ・保持データのデジタル化率
- ・社内の労働生産性
- ・サービス導入社数
- ・社員の研修受講率

【経営者 DX 推進メッセージ】

レガシー産業代表格とも言われる建設業界。

近年叫ばれ続けている課題は「人材不足」です。少子高齢化の影響を受けているのはもちろん、労働環境の悪さから就職先として選ぶ若者も多くはないでしょう。

労働環境が悪くなっている要因として、電話・FAX による連絡やアナログな業務管理などの古い慣習が残っており、生産性が低いということが挙げられます。そこで、そのような業界の不合理的部分を解消したいという思いを持って起業したのが株式会社 CORDER です。「積算から受発注、物流領域まで」約 20 兆円の市場規模を誇る調達領域の不合理的な部分を解消していくことを目指し、先端デジタル技術等を活用しながら、業界の DX を推進していきたいと考えています。今後とも、当社の取り組み状況およびクライアントに有用な情報を継続的に発信してまいります。